

# 風

<http://www.kobe-u.ac.jp>

神戸大学 広報誌  
|kaze| Kobe University  
Public Relations Magazine

Jul.2019 Vol.13

特集1 新たな学術領域「未来世紀都市学」への挑戦

## 百年都市、千年都市のランドデザインをつくる

特集2 次世代のものづくりを、産官学が協力して神戸で実現

## 価値共創で、人にやさしいプロダクトを



学生広報チーム & 神大うりぼー  
学内探検隊!

カフェテリア  
BEL BOXの巻



六甲台第1キャンパスにある、法・経済・経営の学生が主に利用する食堂です。お昼休みには、いつもたくさんの学生で賑わっています。



麺類、丼、ランチセット…何を食べようか迷って、食堂に到着後3分くらいはメニュー表周りをウロウロします…。そして「期間限定」には弱い。皆弱い…はずだ!



食後のデザートでも、単品でも。テスト期間は特に、クリーム系が酷使した頭と磨り減ったハートに染みます。大学芋は、おやつに入るのだね…。



お昼休みの時間以外にも、食堂はオープンしています。広々としたテーブルで友人と一緒に自習をする人も。混んでいる時には席の譲り合いをしましょうね!



経営学部4年・三島春香(右)  
文学部4年・小林優奈(左)  
神大うりぼー

出演



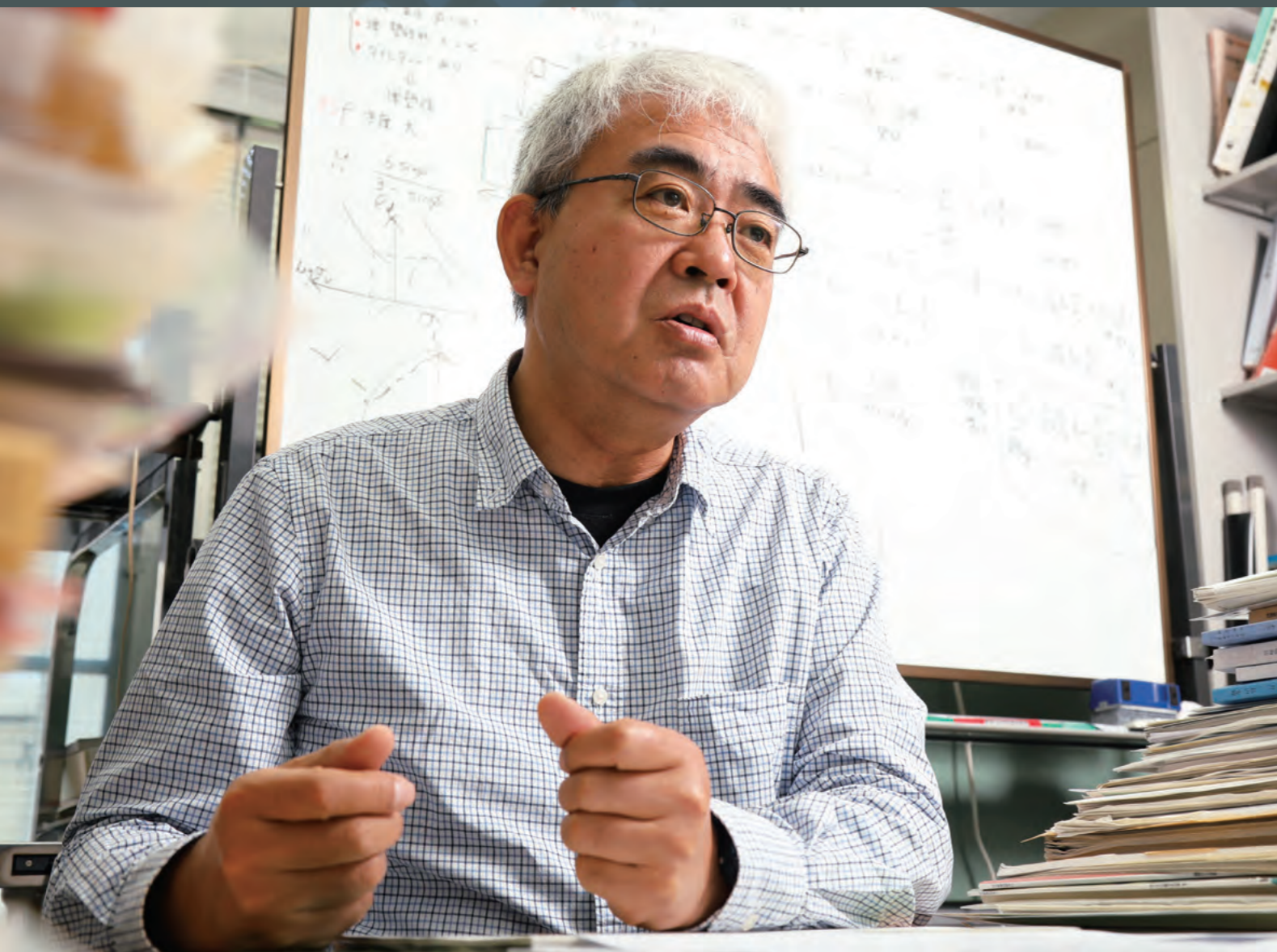
発行日: 2019年7月

編集・発行: 神戸大学 総務部広報課 〒657-8501 神戸市灘区六甲台町1-1 TEL.078-803-5083 FAX.078-803-5088  
アートディレクション・デザイン: 有限会社ティクリエイション / 印刷: 能登印刷株式会社  
©2019 神戸大学 ※本誌に掲載されている記事、写真、図表の無断転載を禁じます。



特集1 新たな学術領域「未来世紀都市学」への挑戦

# 百年都市、千年都市の グランドデザインをつくる



南海トラフ地震を念頭に、防災・減災への取り組みが各方面で進められている。1995年に阪神淡路大震災を経験し、その直後から都市の安全確保につながる研究を総合的に展開してきた神戸大学では、そこからさらに進んで、百年後、千年後まで持続可能な都市をつくるための研究として、新たな学術領域「未来世紀都市学」の開拓に乗り出した。広範な研究分野を融合する全学横断的な新組織「未来世紀都市学研究ユニット」のユニット長に就任した飯塚敦教授に構想を聞いた。

## 兼松房治郎と兼松記念館

今年10月に創立百周年を迎える神戸大学経済経営研究所は、兼松記念館に置かれている。現在の兼松記念館は2代目の建物であり、1934(昭和9)年6月、経済経営研究所の前身・旧制神戸商業大学商業研究所の建物として完成した。設計は文部省の文部大臣官房建築課、施工は大林組が担当。鉄筋コンクリート造3階建て(両翼は2階建て)、外壁は淡黄色のスクラッチ・タイル張り、ロマネスク様式の半円アーチ窓をもつが、全体的に外観は質実剛健のシンプルな意匠である。正面玄関の重厚な扉を開くと、研究所にふさわしい威厳に満ちた静寂が広がる。中央階段ホールには市松模様の床タイル、階段手すりには斬新な鋳物飾りを施すなど質の高いデザインを誇る。2003(平成15)年に国の登録有形文化財となった。

兼松記念館の名前の由来は、今から百年前にさかのぼる。当時、神戸大学の前身校である旧制神戸高等商業学校では、大学昇格を目指して研究機能の充実を図る中で、研究所の設立が重要かつ困難な課題となっていた。その設立を可能にしたのが、兼松商店内兼松翁記念会からの「兼松記念館と研究資金」の寄附である。兼松商店(現在の兼松株式会社)は、1889(明治22)年に兼松房治郎が神戸で創業し、世界一の羊毛産出国オーストラリアとの直接貿易を開拓した先駆的な貿易商社である。1919(大正8)年2月創業者兼松房治郎の遺志を継いで行われた第1回記念事業として、「兼松記念館」を建築寄贈する申し出があり、同時に兼松商店より外国貿易研究資金として多額の寄附



兼松房治郎胸像(1935年建立)



初代の兼松記念館(1920年竣工)

金が寄せられることとなった。この申し出が推進力となって同年10月神戸高等商業学校商業研究所が設立、翌1920(大正9)年12月に初代の兼松記念館(設計武田五一、現存しない)が完成する。1929(昭和4)年神戸高等商業学校が神戸商業大学に昇格した後、現在の所在地である六甲台へ移転することとなり、兼松記念館もかつての兼松商店からの寄附金の一部を建築資金に充当して六甲台に新築移転した。これが現在の2代目の兼松記念館である。車寄せ玄関の上部には、初代兼松記念館から移した神戸高等商業学校初代校長水島鏡也書「兼松記念館」の門標がはめ込まれ、玄関脇には初代定礎の石版が置かれている。また2階中央の記念室には、オーストラリア人画家Norman Carterが描いた兼松房治郎の肖像画が飾ってあり、前庭には兼松の胸像(制作堀進二)も設置されている。

1993(平成5)年に経済経営研究所は、兼松株式会社と公益財団法人兼松貿易研究基金との共同で、大学院生研究奨励賞「兼松フェロウシップ」(現在「兼松賞」に名称変更)を設立し、毎年全国の大学院生から懸賞論文を募集して優秀な者に奨学金を授与している。

(大学文書史料室 室長補佐 野邑 理栄子)



兼松記念館(現在)

### Contents

[特集1] 百年都市、千年都市のグランドデザインをつくる	03
[特集2 神大研究ズームアップ] 価値共創で、人にやさしいプロダクトを	08
[神大生の挑戦] みんなが笑顔になれる場所を、やりたいことに全力投球する	12
[KOBE教育] 5年一貫経済学国際教育プログラム「IFEK」の現在	14
[キラリ神大 OG・OB] スポーツ業界にビジネス人材を送り込む	16
[神大発地球] 神戸大学留学生支援サークル「Truss」	18
[こんにちは!留学生です] 中国からの留学生	20
[国際ニュース] / [留学だより]	21
[アラムナイ] / [神戸大学基金だより]	22
[Mini News]	23

表紙写真: 兼松記念館(経済経営研究所)

兼松記念館はこれまでに、NHK連続テレビ小説「べっぴんさん」、映画「日本のいちばん長い日」、「海賊とよばれた男」など、様々な作品のロケ地として使用されています。2019年には、映画「轢き逃げ-最高の最悪な日-」(監督・脚本:水谷豊)、警察署として登場しました。カメラ:大亀京助





# 都市の防災・減災に パラダイムシフトを起す



未来世紀都市学研究ユニット長  
都市安全研究センター教授  
工学研究科市民工学専攻教授

**飯塚 敦** IIZUKA Atsushi

1959年大阪府生まれ。1981年京都大学工学部土木工学科卒業。1983年京都大学大学院工学研究科博士前期課程土木工学専攻修了。1988年京都大学工学博士号取得。1997年より神戸大学工学部建設学科助教授、2004年神戸大学都市安全研究センター助教授を経て、2005年より現職。地盤環境リスク評価研究分野を担当。海洋研究開発機構・数理学・先端技術開発センター、上席招聘研究員を兼務。地盤工学会会員、土木学会フェローなど。

「レジリエント（しなやか）でサステイナブル（持続可能）な未来都市像を具体化するためには、ハード・ソフト両面の社会インフラの構築を通じて、都市住民の主体的な生活が活性化されなければならない」。未来世紀都市学は、そのような社会形成を支える「知」の蓄積と、文理融合の研究に基づく次代の安全安心で持続可能な都市ビジョンの創生をめざしている。

## 大学に血流を巡らせ、 気づきを作る

### 研究ユニット設立の経緯は？

そもそも防災・減災の基盤となる分野は極めて学際的（学問・研究が複数の異なる領域にまたがる）で、工学、医学、保健学、人文科学、社会科学など多様な研究領域の専門的知見の総結集が求められます。神戸大学には防災・減災に熱意を注ぐ先生方が各分野に在籍しているので、横断的に連携・協働するための組織化は必然でした。

また、神戸大学の近隣にスーパーコンピュータ「京」を持つ理化学研究所計算科学研究センターや、実大三次元震動破壊実験施設「Eーディフェンス」を持つ防災科学技術研究所兵庫耐震工学研究センターがあり、地球深部探査船「ちきゅう」を持つ海洋研究開発機構（JAMSTEC）が南海トラフを計測しています。それらの研究機関を神戸大学がハブ（結節点）となつて繋ぎ、防災・減災に関する知見を集約・統合することも目的の一つです。

未来世紀都市学を、私は神戸大学の「血流」だと考えています。血を巡ら

せる、そして知恵を、思想を、意気を巡らせることで、大学を活性化したい。

### 全員で共同研究を？

いいえ。そうではなく、異なる研究分野から立ち上がる複数のプロジェクトが同時進行する組織です。例えば今、私は「都市まるごとシミュレーション」の研究に携わっていますが、経済経営研究所では阪神高速道路の物流が災害時にどう変化するかを予測しようとしている。また、人間発達環境学研究所と保健学研究科などでは人々のメンタルが平常時と災害時でどう変わるかを、健康や安全の観点から研究している。これらは全く違う研究分野に見えますが、常に意見交換を行うことで、各プロジェクトの成果を自分の研究に生かすことができます。そのため、毎月、集まりを持っています。

### それが二水会ですね。

そうです。また、学生も参加する未来道場（未来社会創造研究会）という組織もあり、シンポジウムなどのイベントを開催して意思疎通を深めています。研究者は二水会やイベントに参加することによって「気づき」が得られる。血流を回すことによって、気づきを作るわけです。研究者の意識が変わり、相乗効果で研究が深まれば、研究分野の枠組みそのものも変わっていく。それが、日本人の知の蓄積に対するマインドを変えることになると思っています。







## 文理融合を実現させるカギ 道場「未来社会創造研究会」



飯塚教授が「文理融合を実現させるカギ」と位置付けている組織、それが大学院工学研究科道場「未来社会創造研究会」（通称：未来道場）だ。「人が幸福であるためには、人が必要としている価値を創り出すことが重要」というテーマを、人間中心価値工学として研究する場として2016年4月に設立。教員や学生を問わず、参加者が持ち込んだ希望や課題に対する実現策・解決策を、立場も所属も異なるメンバーと一緒に考え、議論する場として運用されている。ここには企業なども参加し、さまざまなワークショップを開催。異なる専門分野の人々が同じ課題に取り組むことで、それぞれの研究テーマに対す

る捉え方が多角的になるという。まさに飯塚教授の言う「血流」を巡らせる場なのだ。未来道場では、シンポジウムなども開催しており、2017年と2018年には「未来世紀都市フェス」というイベントを開催した。これは、未来の社会のあり方を考えるために、神戸大学の研究者などがそれぞれの専門分野からの視点で未来を語る「TED」風のプレゼンイベントで、一般の人々も参加できる。講演者同士の情報交換だけでなく、聴衆からもダイレクトに反響が得られるので、専門家から一般の人々まで間で知識を共有し、意思疎通を深めることができる場となっている。

master's  
Voice

### カリフォルニア大学バークレー校で コンピュータ科学と異分野の融合に開眼

工学研究科 市民工学専攻  
博士課程前期課程 2年  
小松 美樹 KOMATSU Miki



飯塚先生の研究室では、海底地盤の変動シミュレーションの研究をしていました。地球物理学の人たちが観測した現象に対して、土質力学的な解釈を提案できて、面白かったです。大学院に進んで、カリフォルニア大学バークレー校に1年4ヶ月間留学しました。客員研究員として都市のシミュレーションの研究グループに参加し、交通とパイプライン（水道）のシミュレーションに携わりました。これは、人口が750万人を超えるカリフォルニア州ベイエリアを対象に、道路の下にあるパイプラインが地震で破裂した場合の交通に与える影響を、スーパーコンピュータを使って予測する研究です。水道のネットワークと交通のネットワークを重ね合わせ、そこに何千通りもの地震のシナリオに基づく揺れの強弱を示すマップも重ね合わせて、揺れの強いエリアで水道

が破裂し、周囲の道路が封鎖されることを想定すると、避難にどう影響が出るのか、といったことを、詳細に、広域のエリアを対象に明らかにできます。この研究は、今もアメリカのチームとオンライン・ミーティングを重ねながら続けていて、修士論文にまとめるつもりです。神戸まるごとシミュレーション（IES）にも、理化学研究所の研究パートタイマーとして参加させてもらっています。自分の研究と目的が同じなので、とても有意義です。ITを使ったシミュレーションには、コンピュータ科学と土木といった異分野の融合に楽しさを見出しています。今後もアメリカで身につけた技術を、IT×医療、IT×農業など幅広い分野で生かしていきたい。今の自分の研究には、人々の役に立つ実感があるので、大きなやりがいを感じています。

### 想定外をなくす 災害シミュレーション

——都市まるごとシミュレーションとは？

都市まるごとシミュレーション（IES）は、未来世紀都市学のパーツの一つです。東京大学地震研究所や理学研究所とのプロジェクトで、「京」コンピュータに地図情報や資産台帳などの膨大な情報を取り込んで、都市全体の地震シミュレーションを行うためのプラットフォームです。地盤や道路、上下水道はもちろん、建物1棟1棟の情報まで入力されており、都市の詳細かつ多様な被害想定が得られるので、防災・減災対策の具体化を促進



都市まるごとシミュレーションでは、多様な情報を統合して可視化できる

できます。

広域、高精度で、多数シナリオに対応するIESのポテンシャルは、ハザードマップの高度化にとどまるものではありません。多数シナリオとは、考え得る可能性を全て網羅し、想定外をなくすということ。たとえば南海トラフ地震で想定される被害シナリオは1万数千通り。それを全て「京」コンピュータで計算すると、都市の任意の地点のリスクが定量化されます。

——地価に影響してくる？

それだけでなく、資産管理や保険、投資のあり方も変わるかもしれません。IESは地震だけでなく、津波や集中豪雨、風水害などのシミュレーションデータも同時に反映できるので、複合災害に対応した予測ができます。考えられる可能性は全て入れる、入ってなければいけないんです。

### 神戸モデルを世界に広げる

——社会実装はどのように？

技術研究組合を組織します。この組合には大学と研究機関、複数の民間企業が加入して、私たちが提供するIESなどの技術をもとに、各企業がビジネスモデルを創出して事業化する、つまり、防災・減災の市場を作るのが目標です。実現すれば、国家が担うものとされている都

市のレジリエンスを図る取り組みは、今後は民間の経済活動が担うものとなるでしょう。これを私はパラダイムシフトと呼んでいます。

——研究成果を民間に無償提供？

そうですね。その点で合意している先生方が参加しています。目先の利益よりも、これから大学に入ってくる高校生達の注目をこの分野に集め、未来の学生や研究員の確保、ひいては大学の発展と社会貢献に繋がりたい。神戸大学をハブとして近隣の防災・減災の学術研究施設をつなぎ、神戸に地域連携拠点を形成することから、次世代に繋ぐところまでの全体を「神戸モデル」として確立し、他の都市に広げていきたいですね。

——海外も視野に？

既にカリフォルニア大学との連携を準備中です。カリフォルニア大学バークレー校でも、サンフランシスコの町全体の災害シミュレーションに取り組みたいです。互いに情報交換しながら、協力していきたい。具体的な連携が進めば、次のフェーズ、次の世代のイノベーションが起こるでしょう。我々が次の世代に託したいのは、発想の豊かさ。大学は発想できる人材を供給しなければなりません。そのためには大学の中に血流を回しておかないといけない。だからこそ、未来世紀都市学が重要なのです。

道場  
「未来社会創造研究会」

工学研究科  
大村 直人  
OHMURA Naoto

未来社会を創造するということは、多様な人々が幸福になる仕組みを考えることです。現代社会が抱える課題に真摯に向き合い、人々が本当に望んでいることは何であるかを考えることが重要です。これは、人が望む価値を創り出すことです。本ユニットでは、この価値創造を「人間中心価値工学」として文理融合で構築することが期待されます。

人文社会科学部門  
歴史・倫理学・文化遺産

人文学研究科  
奥村 弘  
OKUMURA Hiroshi

阪神・淡路大震災を契機に、被災地の歴史資料の救出・保全と、災害に関する聞き取りや資料等の収集保存を行い、これらを地域の歴史遺産として未来に伝えていくための実践的研究を進めています。地域のコミュニティが存続の危機を迎える中で、地域の記憶を住民とともに歴史として引き継ぐこと、さらには災害列島の中で災害に強い地域社会構築に資するための研究を展開しています。

Well-being研究拠点  
社会関係資本研究ユニット

人間発達環境学研究科  
岡田 修一  
OKADA Shuichi

未来世紀都市を支える多様な人々のwell-being（安全・安心の確保と豊かで質の高い生活）を実現するためには、様々な地域の健康課題の解決とともに、都市における人々の社会的連携や協調を実現させる取り組みが必要です。健康で安全・安心な社会構築のための文理融合研究を進め、「人々」を主体とした未来世紀都市学を具現化させたいと思っています。

地域協働型防災・減災連携拠点  
計算社会科学研究ユニット

計算社会科学センター  
上東 貴志  
KAMIHIGASHI Takashi

計算社会科学は、近年急速に発展しているビッグデータや計算技術に基づく「新しい社会科学」です。オンライン上で取得可能なビッグデータ、コンピュータ・シミュレーション、ネットワーク分析等が主な分析ツールで、現在世界的に急速に発展しています。未来世紀都市学研究ユニットでは、計算社会科学の観点からの都市研究も行っています。

地域協働型防災・減災連携拠点  
複合系気候科学研究ユニット

都市安全研究センター  
大石 哲  
OISHI Satoru

災害時に命を守るために必要なことの一つは情報ですが、混乱の中で適切な情報にアクセスできない人も多くいます。普段できていないことは災害時にはできないので、普段から情報を活用して安全・快適に生活できる社会形成が求められます。利用者のニーズに合わせた情報を提供するためには真のニーズを理解する必要があります。

未来世紀都市学研究ユニット  
Multidisciplinary Integration for Resilience  
And Innovation; MIRAI

MEMBER

未来世紀都市学研究ユニットには、工学、医学、保健学、人文学、経営学、経済学、農学、理学、人間発達環境学、システム情報学、海事科学などの研究科と、都市安全研究センター、経済経営研究所、神戸大学附属病院などから研究者が参加し、分野横断的な研究が行われている。



次世代のものづくりを、産官学が協力して神戸で実現

# 価値共創で、人にやさしいプロダクトを



interviewee

大学院システム情報学研究所  
システム科学専攻 教授 評議員  
**貝原俊也**  
KIHARA Toshiyuki

1983年京都大学工学部卒業、1985年京都大学大学院工学研究科精密工学専攻修了。1993年ロンドン大学インペリアルカレッジ博士課程修了。2001年神戸大学大学院自然科学研究科助教授、2004年神戸大学工学部教授を経て現職。システム工学およびその生産・サービス・社会システムなどへの適用に関する研究に従事。現在、スケジューリング学会会長、システム制御情報学会副会長、日本機械学会フェロー、国際産工学アカデミー(CIRIE)会員。

日本経済の再生と持続的成長に不可欠な科学技術イノベーションを実現するために、内閣府が主導する国家プロジェクト「SIP」(戦略的イノベーション創造プログラム)。神戸大学は3つのSIPプロジェクトに主導的に関わり、そのうちの「リアルタイム3Dプリンターによるテーラードラブラー製品の設計・生産」と社会的な価値共創に関する研究開発」を、システム情報学研究所の貝原俊也教授が率いた。

このプロジェクトで追求されたのは、消費者により大きな価値を提供できるものづくりのあり方で、実例としてオーダーメイドのランニングシューズを、量産品のように早く、安く提供できる製品設計・生産システムが作り上げられた。そのキーワードとなる「価値共創による新しいものづくり」について、貝原教授に聞いた。

## 消費者を製品設計に巻き込む

プロジェクトが始まった経緯は？

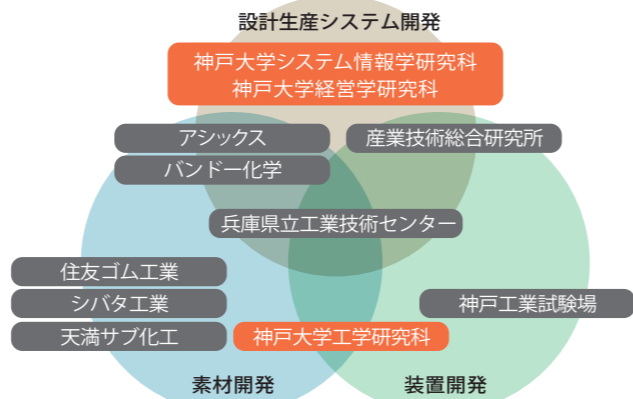
SIPの中で超上流ドライフト設計という掛け声のもと「革新的設計生産技術」という分野が立ち上がり、公募がかかりました。「超上流」とは、ものづくりにおける上流設計よりもさらにユーザー(消費者)に近い部分、つまりユーザーとの接点で、「ドライフト」はユーザーの満足を意味します。

今はIoT(Internet of Things)モノのインターネット)を活用すればユーザーの詳細な情報が得られる時代です。それなら、ものづくりにユーザーを巻き込むことで、ユーザーが本当にほしがるものを一緒に作れないか。私たちはそれを「価値共創」と呼び、公募以前から作り込みを行っていたんです。

なぜシューズを題材に？  
神戸は工業用ゴムの発祥の地であり、神戸の地場産業といえばシューズです。その接点を探ろうとラバー用3Dプリンターを開発して、それをシューズのソール(靴底)に展開しました。地場産業の活性化による地方創生も視野に入れています。

このプロジェクトには、私が所属するシステム情報学研究所のほか

## プロジェクト参画機関・企業



(図1)

に、ラバー素材と3Dプリンターの開発には工学研究科、ビジネスモデルの構築には経営学研究科の先生に参加していただきました。また、マネジメントは学術・産業イノベーション創造本部にお願いし、学外からはアシックス、住友ゴム工業、バンドー化学、神戸工業試験場、兵庫県立工業技術センター、産業技術総合研究所など8機関・企業の参画を得ました(図1)。

## 「考える工場」で次世代のものづくり

どのような生産システムを？  
ランニングシューズのテーラード

イド(オーダーメイド)システムにおいて「価値共創」を実現しました。まず、人の足の動きを徹底的に分析するために、人体のデジタル機能モデルを開発しました。ユーザーごとに足の立体データを作成し、走行中の動きをシミュレーションすることで、シューズの機能性や快適性を定量的に評価できます。デジタルモデルがあれば、「速く走りたい」「膝への負担を軽減したい」といった個別の要望に応じて、ベストな形状、硬さのソールを提案できます。

ユーザーのためのスマートフォン(以下、スマホ)アプリも開発しました。自身の足を3方向から撮影してクラウドに送ると、足のデジタルモデルが即座に作成され、スマホに表示されます。次に「疲れない靴がほしい」といった要望を入力すると、最適なシューズがいくつか提案され、そこから選んで購入できる仕組みです。

その提案を行うのが「考える工場」、スマートファクトリーです。全ての製造機器がインターネットでつながり、互いに通信しながら自動生産を維持するモデル工場を、エージェント・ソフトウェアで実現しました。全ての機械に内蔵されたAI(人工知能)が「今何を作っている

のか」という情報を共有し、常に最も効率の良い生産工程を実現します。新たなオーダーが入ると同時に工程が見直される生産管理の仕組みによって、一つひとつ違う製品を、大量生産品に近い形で、早く安く供給できる。これが価値共創のマスクスタマイゼーションです。

一つひとつ違う製品が同じ生産ラインで作られる？  
そうです。この工場の生産システムがユーザーのスマホアプリとクラウド上でつながっているため、工場の生産状況を踏まえて、ユーザーに最適な商品提案ができます。納期や価格も瞬時に計算され、数秒後にはユーザーのスマホに回答します。それをユーザーが了承すると、自動的に作り始めるわけです。

3Dプリンターもそのラインの中に？  
もちろんです。オーダーごとにカスタマイズ仕様が計算され、ある製品は3Dプリンターをフルに使う、ある製品は一部に使うというように、必要に応じて3Dプリンターが稼働します。ソールはアウトソール、ミッドソール、インナーソールの三層構造で、それぞれ素材も製法も違うので、今回開発したラバー用3Dプリンターは3種類。素材も含め、いずれも世界初の技術開発となります。



# IoTを介して消費者がものづくりに参加



生産ラインを流れる製品のパーツにはIDが割り当てられ、オーダーごとに管理される

—— **日本の製造業の競争力を向上**  
—— 実際に行ったシューズの性能は？

ので、靴はその媒介です。たとえば加齢に伴う足の経年変化に寄り添い、常にその人に合った靴を提供できれば、ライフサイクルを通じて歩く楽しみを提供できます。こうした使いながら新たな価値を製品に付加していく「育てる人工物」を作っていききたいですね。

—— **実際に作ったシューズの性能は？**

実証実験として神戸マラソンに挑戦しました。4人のモニターそれぞれの足の形と走り方に合わせてソールをカスタマイズしたシューズを作り、センサーを装着して走ってもらいました。うち3人は2年連続で走り、1年目の動作分析や走り方の解析結果をフィードバックして、2年目のシューズを改良した結果、全員が完走し、タイムは1年目より改善、2人が自己最高記録を出しました。

—— **ラバー用3Dプリンターの汎用性は？**

さまざまなラバー製品を製造できます。価値共創により、身体の「形」だけでなく「動き」をもとにユーザーへの最適化が可能なので、サポーターや水着などのスポーツ用品、パワーアシストスーツ、介護・医療用品、工業用のパッキンなどに転用していききたい。既に「価値共創プラットフォーム」には問い合わせも来ています。

—— **このプロジェクトで開設された実践の場は？**

そうですね。兵庫県立工業技術センターに開設し、今回開発したラバー用3Dプリンターやスマホで設計するシステムを一般に開放しており、いろいろな企業が利用しています。また、神戸大学内には「3Dスマートものづくり研究センター」を開設しました。こちらは研究開発の場で、たとえば、価値共創プラットフォームの方で課題を解決できない場合に、3Dスマートものづくり研究センターで研究開発を行います。

これらの施設を通じて、日本の製造業を応援したい。今後は製品提供だけでなく、仕組みの部分で国際競争力を高める必要があります。繰り返しながら、ものを使うことによるいろいろな喜びや価値を提供できれば、日本の製造業はどこにも真似できない競争力を持つことになるでしょう。

## ニーズに応じて市場を形成

—— 人体のデジタルモデル、スマホアプリ、スマートファクトリー、3Dプリンターがつながり、価値共創が実現されるわけですね。

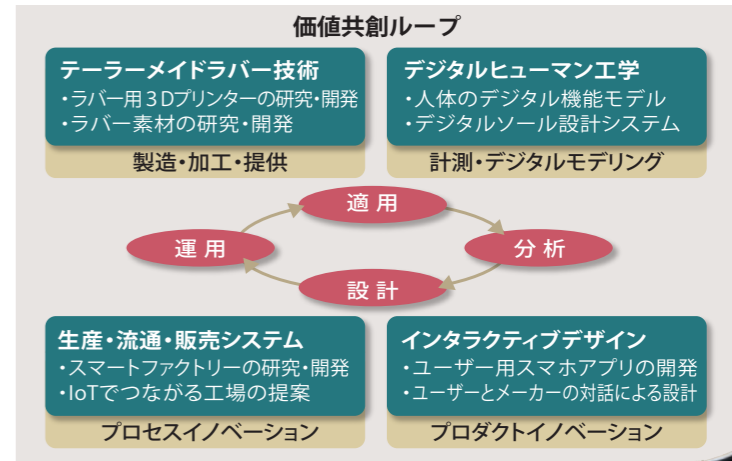
これを価値共創ループと呼んでいます(図2)。このループは三層構造で、一層目のループはプロ仕様の完全オーダーメイドの市場、二層目は、いわゆる市民ランナー向けのセミオーダーメイ



AIによる自律的な生産を研究するスマートファクトリーのモデルプラント

ドの市場、三層目は一般ユーザー向けの部分オーダーメイドの市場です。

一層目のプロ仕様では、センサーやカメラを駆使してユーザーの身体情報を把握した上で最適の設計を行い、3Dプリンターをフルに活用して最高度に機能性を追求するものづくりが行われます。ここで開発された技術が、二層目、三層目のものづくりに反映されます。自動車であれば、F1レースで開発された最先端技術が市販



(図2)

車に應用されていくイメージですね。逆に、三層目の一般ユーザーの市場からは「速く走りたい」「長く走りたい」「快適に歩きたい」といったさまざまなニーズがフィードバックされて、新しい製品開発につながる。こうして三層のループが回りながら、全体として価値競争力を高めていく。そして、二層目、三層目になるほど製品の価格は下がり、納期は短くなり、マーケットのサイズは大きくなる。価値共創によるものづくりには、こうしたビジネスモデルを想定できます。

もともと価値共創とは、走る楽しさ、歩く楽しさを消費者に提供するも

## スマートファクトリーへのサイバー攻撃を早期に検知する技術も開発

# Topics



スマートファクトリーの普及に伴い、サイバー攻撃も巧妙が進む、そう予測する貝原教授は、攻撃を早期に検知する技術についても三菱電機とともに開発済みだ。工場内の各機器への製造指示を書き替えて不良品を作らせるといった攻撃を想定し、注文が入った時点で最適な製造指示を予測するシステムを構築、予測と実際の製造指示を比較することでサイバー攻撃を検知でき、攻撃を受け

た部分をネットワークから切り離して他の工場で生産を維持する仕組みを作り上げた。

「サイバー攻撃対策というと、破られないセキュリティを考えるケースが多い。私たちは『攻撃されないようにする』のではなく、『攻撃されたときに被害をいかに最小限で食い止めるか』というコンセプトで開発しました。病気治療では早期発見が最も重要。工場も同じです」(貝原教授)



「nano tech 2019 第18回 国際ナノテクノロジー総合展・技術会議」でラバー用3Dプリンターを紹介



「工学フォーラム 2016」で講演する貝原教授



神戸マラソンでシューズの機能性と耐久性を実現





そこに想像以上の大変さがありましたね。ただ、僕はみんなが集まって楽しく過ごせるような場所を作りたいと普段から考えていたので、今とてもやりがいを感じています。とある雑貨店とコラボして商品を置かせてもらったり、何か面白いことをしてくれたりタコス一つ無料にしたりといった売場の工夫は欠かせませんね。

——レイバンズに所属されていたとのことですが、入部した理由やアメフトの魅力について教えてください。

実は、神戸大学を目指したきっかけがレイバンズの存在でした。僕は高校生の頃から部活でアメフトをやっていて、大学もアメフトが強いところに入りたくて考えていました。

アメフトはとても激しいスポーツなので、試合では身体能力の高い方が勝つというイメージがあるかもしれませんが、確かに身体能力も重要ではありますが、その一方で綿密な戦術のパターンがたくさんあり、それが試合の結果を左右します。レイバンズでは毎日試合の動画を見て相手チームの動きを分析するメンバーもいるくらい、アメフトは頭脳でも戦えるスポーツなんです。僕は大学生活の4年間を費やす価値がアメフトにはあると考えています。

——アフリカ大陸に長期滞在されていたと伺いました。その時のことについて教えてください。

2回生の時に初めて友人と訪れた海外

## みんなが笑顔になれる場所を やりたいことに全力投球する 渡邊 雄大

神大生の  
挑戦

海事科学部 グローバル輸送科学科 4年

WATANABE Yudai

今回は、タコスのフードトラック「G YOU G」をお一人で経営する海事科学部4年の渡邊雄大さん取材しました。フードトラック経営の実態や渡邊さんのキャンパスライフなどについてお話をお聞きます。

で、日本とは全然違う文化に衝撃を受けました。環境が異なることも考え方が違うのかと驚き、それがきっかけで他の国も見てみたくなって、1年間休学してアフリカへ飛んだんです。エジプト、エチオピア、ケニア、タンザニア……と北から順にアフリカ大陸を縦断していきました。そのうち1ヶ月間はザンビアで出会ったイギリス人の方とキャンプをしたり、アフリカ大陸最高峰のキリマンジャロに登頂したりもしました。この旅を通して、周囲の環境が人の価値観に与える影響の大きさを痛感し、自分の価値観を高めるために笑顔を絶やさず、いろいろな人が寄ってきてくれるように心がけています。

——渡邊さんの将来の夢を教えてください。

寿司職人です。南アフリカを訪れた際に現地の寿司屋に入ったんですが、お世辞にもあまり美味しいとは感じられませんでした。その時は、アフリカに日本の美味しい寿司を持って行きたいと思ってたんです。レイバンズに所属していて、先輩にも大手企業に勤めている方が多くいらっしゃる中、僕の選択は周りから見れば異質かもしれませんが、実際に友人にも「どうして寿司職人？」と何度も不思議がられました。しかし僕にとっては、自分の提供するサービスの対価としてお金を得られるというのが重要です。それが目に見えて分かり、実感が得られると思ったのが寿司職人でした。



——タコスのフードトラックを運営するようになった経緯を教えてください。

所属していたアメフト部・レイバンズを引退してフラフラしていた時期に、神戸市北区にあるハンバーガー屋さんで友人と行ったんです。そしたら、そのオーナーから「うちにフードトラックが余っているけどどう？」と突然持ちかけられ、なんと1台譲り受けることになりました。何をしても良いと言われて考え、そのハンバーガー屋さんからタコミットを仕入れてタコスを作って売ることに決めました。こんなこと、なかなかないですよね(笑)。たぶん僕は、落ちている運を拾うのが得意なんだと思います。

——フードトラックを運営する上で大変なことはありますか？

経営経験など全くなかったので、どのようにすれば良いのかわからず困ったことはよくありました。また、何でも自由にできるということは、自分で全部決めて動かさなければならぬということなので、

——最後に、神大生や高校生へメッセージをお願いします。

僕はアメフトにアフリカ縦断やキリマンジャロ登頂、タコスのフードトラック経営など、やりたいと思ったことに後先考えず取り組んできました。周りから見れば、「変わった奴」だったと思います。そんな僕なりに神大生や高校生に向けて送るメッセージがあるとしたら3つ。まず、十人いたら十通りの生き方があって、それらは全部間違いではありませんから、自分の生き方に自信を持ってください。次に何よりも、自分の生き方に自信を持つためには「自分で考えて、自分で判断して、自分で行動すること」が大切です。最後は、「謙虚さ」を忘れずに。自分で考えることは決して、自分一人だけで考えるものではありません。周囲の人々のアドバイスを謙虚に受け入れて、その上で、自分で改めてしっかり考えることです。これからの人生、たくさんの選択すべき事があると思います。僕もこの3つを引き続き大切にしていこうと思っています。



インタビュー—学生広報チーム  
三島 春香 経営学部経営学科4年  
MISHIMA Haruka



# 「IFEEEK」の現在

## 5年一貫経済学国際教育プログラム



大学院経済学研究科 准教授  
ヴィエシボフスカ アガタ WIERZBOWSKA Agata

「IFEEEK」は、神戸大学と海外協定大学での学びを組み合わせ、英語で経済学を使いこなす力を身につける特別教育プログラム。最短5年で学部と大学院博士課程前期課程を修了することができます。

### 開始当初から変わった点は？

基本的な形はそのままです。プログラムは2年生からスタートし、通常の学部の授業に加えてIFEEEK特別演習を受講します。最短のモデルコースでは、3年生の後期から半年間海外留学をし、学部を3年半で卒業。そのまま大学院に秋入学し、1年半で修了するという流れになっています。

今は、そういった形は踏襲しながら、特別演習の中身を変えていこうとしています。例えば、英語での発表やディスカッションのスキルを高めるためのアクティブラーニングを取り入れたり。英語でのレポートの書き方ももちろんですが、全般学習として重要で、留学してから必要になる大事なスキルを、よりしつかりと身につけられる内容にしました。

また、特別演習には国際交流コーディネーターの職員がついているものがあり、授業以外でも留学全般について、学生は国際交流室にて気軽に相談できるようになっています。これまでと同様に、留学の準備のため英語で経済学を説明する授業もあります。

### 7年目を迎え、どのような成果が上がっているのでしょうか。

受講生の人数も安定していて、3期生以降は毎年12名以上がプログラムに参加してくれています。現在までにこのプログラムで大学院を卒業したのは17名。就職活動において評価される声も聞き、卒業生の中には、ファイナンス系やコンサルティング系、商社など、高度な専門知識や国際性が重視される職業に就いている人もいますよ。

### 今後の展開について教えてください。

特別演習の新体制は決めましたが、学生のニーズに応じて常に見直ししながら、さらに充実させていこうと考えています。意欲の高い学生にたくさん来てもらえるよう、プログラムの認知度ももっと高めていきたいです。英語力は入ってから身につければいいので、プログラムに参加する時点では、志望動機とやる気を重視します。専門性を身につけ、それを日本でも海外でも生かせるような学び方ができる、様々な機会とチャンスが得られるプログラムなので、ぜひ国際人材や高度専門家を目指す学生に来てほしいと思っています。



IFEEEK 7期生「特別演習Ⅰ」授業風景



IFEEEK 7期生「特別演習Ⅰ」授業風景



IFEEEK 6期生「特別演習Ⅲ」授業風景

# Voice

プログラムを履修して

## 留学を見据えた実践的な演習



経済学部 経済学科4年生  
泉尾 京介 IZUO Kyosuke

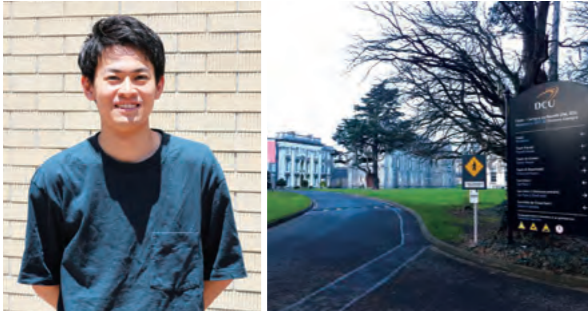
1年生のときにグローバルチャレンジプログラムで、JICA関西とWHO神戸センターに職場体験に行きました。そこで話を聞くうちに、専門性と語学力はやはり身につける必要があると感じ、IFEEEKに応募することにしました。

IFEEEKは留学を見据えた勉強ができ、周りの学生も意欲的なので良い刺激になります。授業では経済学のトピックについて英語でプレゼンをしたり、留学のためにどんな準備が必要かを話し合うような機会もありました。

僕は半年間、ベルギーのアントワープ大学へ留学しました。向こうでの授業はやはり難しかったです。専門性の高い内容を英語で学ぶ難しさもありますが、アプローチの仕方が違うというか、テストの問題もただ知識を問うのではなく、経済学を深いところまで理解し、応用できているかが問われるような内容でした。ついていくのが大変でしたが、とても勉強になりました。

僕はあと半年で学部は卒業で、今は卒論を書いています。インフラの波及効果に関して先行研究の整理を行う「サーベイ論文」にしようと思っていて、修士論文ではそれを踏まえて自分でテーマを立て、さらに実証分析をしたいと考えています。大学院の修了後は、まだ具体的には決めていないのですが、国際的にチャレンジができるようなところで就職したいと思っています。様々な業種の企業のインターンに参加しようとしていて、卒論に授業にインターンにと忙しいですが、頑張りたいです。

## 留学を通して修士号の重要性を再認識



経済学部 経済学科4年生  
泉尾 京介 IZUO Kyosuke

高校生のときからIFEEEKに興味があり、神戸大学を受験しました。大学4年間で普通に過ごすだけではもったいないと思っていたのと、自分は英語が得意なわけではなかったのですが、留学がしたくて、IFEEEKは入ってから必要な英語力を身につけられる点にも魅力を感じました。

2年生の後期の授業では、英語でミクロ経済学とマクロ経済学を学び、それらの考え方を自分でも英語で説明するような機会があり、「英語の勉強」ではなく、「英語で勉強」ができるようになったのが楽しかったです。日本の政治など、教養について学ぶ授業もあり、留学先での生活についても担当の先生が意識付けをしてくれて、モチベーションを保つことができました。

留学は、アイルランドのダブリンシティ大学に行きました。自分が行ったとき、アイルランドはブレグジット問題の渦中で、EUの問題を経済政策の面から見る授業もありました。現地ではやはり、鬼気迫るといって、ものすごい説得力を感じましたね。また、海外の学生は修士号や博士号を取ることに意識がすごく高く、僕も刺激を受けて、改めて修士号を取りたいと強く思いました。

環境問題や地方活性化に関心があるので、国や地方それぞれの社会構造をしっかりと分析した上で、有効な環境政策を提言するのが修士論文の目標です。将来は、そういった分野で経済学の知識を活かして働けたらと思っています。

大学院を2年で修了

大学院を1年半で修了

学部を4年で卒業

学部を3年半で卒業

半年から1年海外留学へ

2年目に開始

大学生活開始

通常課程

IFEEEK

学部入学から修士号取得まで

6年目

5年目

4年目

3年目

2年目

1年目

入学





産業能率大学授業風景



フットボールインダストリーズMBA同級生とドバイにて



1992 サッカー部合宿 (岡山県美作市にて)

# 元リーガーの会社経営者として スポーツ業界にビジネス人材を送り込む

浦和レッズでの9年間の選手生活を経て、現在は経営者・大学教授として活躍されている、株式会社オプト・スポーツ・インターナショナル代表取締役・西野努さんにお話を伺いました。



西野 努 NISHINO Tsutomu <http://www.opt-sports.co.jp>  
1971年3月13日、奈良県生まれ。「文武両道」をモットーに育てられ、進学校から神戸大学へ進学し、大学卒業と同時にプロサッカー選手として浦和レッズへ加入。9シーズンプレーした後、フロント業務に携わりながらもイギリスへ留学し、MBAを取得。帰国後、独立会社の経営に携わりながら、産業能率大学においては、スポーツビジネスの分野で教鞭をとる。

— どのような大学時代を過ごされたのですか。  
もともと会計士になろうと考えていて、神戸大の経営学部に進学しました。受験勉強の反動でしばらく遊んでやろうと思いましたが、最初のうちはフラフラしていましたね。でも、それにも飽きてしまい、サッカー部にいた高校の先輩に誘われて、部活に参加するようにになりました。

秋に1部に昇格したのですが、部には指導者がいなかったため、練習もチーム運営もすべて自分たちでやっていましたね。トレーニング方法や栄養学、メンタルトレーニングなどについても、本を読んで勉強して。自分で考えて行動する習慣を身に付けられたことは、すごく大きかったと思います。

— 引退後どのような道へ？  
浦和レッズがフロントスタッフのポストを用意してくれていて、選手としては自分の能力を出し切ったと思っていたので、割とすんなり引退しましたね。一年半フロントとして働き、その後イギリスの大学院に1年間留学

しました。一度自分のリセットをして、改めてちゃんと勉強や経験をしなければと思っていました。リバプールの大学のフットボールインダストリーズMBAという、サッカー業界に特化したニッチなMBAのコースに進学しました。

せん。今は、他の業界にいる優秀な人を、どんどんスポーツ界に送り込んで、業界をもっと良くしようというのをミッションにしています。あとは、子供向けのサッカーキャンプの企画・運営もしていますね。体力や技術を鍛えるものというよりは、自分で考えて判断ができる知的な選手になってもらえるようなプログラムにしています。

きがちな学生が多いように思いますね。バイトばかりしていたり、就職活動の際に企業名やサラーばかり見ている。目の前のことだけではなく、もう少し長期的なことも見て、後から生きてくるような経験をしてくれたいと思います。例えば、好きな勉強に打ち込むとか、貧乏旅行であちこち海外に行くとか。あとは、何かプロジェクトを立ち上げて苦労したり、ボランティアに関わって様々な問題に悩んだり。そういったことも、社会に出た後、自分のためになると思います。

妻と生後半年の双子をつれて家族4人でイギリスへ行ったのですが、学生をしながら子育てをして…と、子供が小さい時期に一緒に過ごす時間を長く取ることもでき、人生の切り替えの良い機会になったと思います。

また、湘南ベルマーレのスポンサーをしている大学で、教授として週に2、3回授業をやっています。今、スポーツマネジメントやスポーツビジネスの分野がすごく人気で、そういうコースがかなり増えているんですよ。僕は元選手ですし、今自分でスポーツビジネスをやっているの、現場のことを学生に伝えるというミッションを持って教えています。

— 最後に神大生や高校生に向けてのメッセージをお願いします。  
大学生や高校生の皆さんには、勉強でも空いた時間で取り組むことでもいいので、何かを精いっぱいやりきる経験をしてほしいです。僕も好きなサッカーをとことんやって、そのときに学んだことが今もずっと役にたっていますから。

— 現在はお仕事をおこなっていますか？  
今は、「スポーツ×教育」をテーマに仕事をしていて、リーグが立ち上げた、スポーツ経営者を育成する「スポーツヒューマンキャピタル」のコース責任者をやっています。スポーツ業界は人材不足で、競技経験者があるまま組織の責任者になる例も多いのですが、やはりビジネスを分かっているメンタメントができるような人でなければ務まりません。

— 大学で教えていて、学生に思うことはありますか？  
目に見える「美味しそうなもの」を取りに行

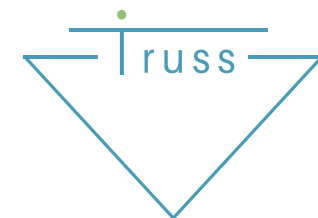
また、僕にとって、神戸大学は行ってよかった、楽しかったと思える大学です。大学時代の友人は未だに仲間ですし、サッカー部の縦のつながりも強くて、いろんな先輩・後輩とも繋がることができます。



©URAWARDS

もちろん、どんな場所でも自分の気持ち次第で良いものに変えていけるとは思いますが、やはり大学の持っている力というか、文化のようなものの影響は大きいと思います。自分の人生の一時期を、神戸大学で過ごせたのはありがたいことだと思っています。みなさんもせっかくの学生時代を、ぜひ大切に使ってください。





他団体とコラボして丹波篠山で農業体験



週に一回の定例イベント。週替わりで様々なイベントを開催



留学生を連れて神戸三宮の散策ツアー

# 日本で学ぶ留学生に 充実したキャンパスライフを 過ごしてほしい

松長 また、留学生は基本的に寮に入ります。その際に、退寮した留学生が置いていった生活用品を、新しく入寮してきた留学生に無料で配る活動も行っています。

—— 留学生の滞在期間は？

太田 基本的には半年、1年の人が多いですね。交換留学で1年間だけ神戸大学に通うケースがほとんどです。

島田 博士の学位を得るために神戸大学に來られている方にも対応しています。

—— 短い滞在期間中に交流を促すために、  
たくさんイベントが必要なんですね。

松長 そうです。仲良くなった留学生が1年後に帰国してしまうのは淋しいですが、イベント開催後に留学生から「オーガナイズしてくれてありがとう」と言われると、頑張った良かったなあと思います。

太田 留学生は日本が好きで、日本人のことが知りたくて来日しているのに、実際には日本人だけでかたまっているコミュニティを横目で見ながら1人で勉強している留学生も多いんです。だからこそ、気軽に日本人と接することができて、同じ留学生の友達もできるオープンな場を提供して、留学生の日本の大学生活を充実したものにしてあげたい。

島田 それに、私を含め、トラスには留学や海外に興味を持っている人が多いので、留学生が帰国した後もフェイスブックやインスタグラムで連絡を取り合っています。私はドイツ文学を勉強しているので、ドイツの学生といろいろ教え合ったりすることは、社会勉強としてもすごく楽しいですよ。

—— 交流促進に最も効果があったイベントは？

松長 やはり毎週行っているイベントです。1回90分程度のもんですが、「毎週ここで何かやってるよ」と言えることは、トラスのイベントを留学生に認識してもらおう上で大いに役立ちました。イベントの毎週開催はトラスでも初の試みで、僕たちの代の総務が行った改革の1つです。この週一イベントに参加する留学生と日本人学生のコミュニティができたことは目に見える成果です。

太田 広報手段についても、LINEのグループ「トラス・インフォメーション」を新たに始めました。掲示板のような役割を果たすもので、留学生が聞きたいことを気軽に聞ける場になっています。

松長 発案者は太田くんです。トラスのイベントに参加してくれた留学生を招待して、いま約300人の留学生が入っています。何かあればそこで呼びかけができるので、すごく有効な広報手段になっています。

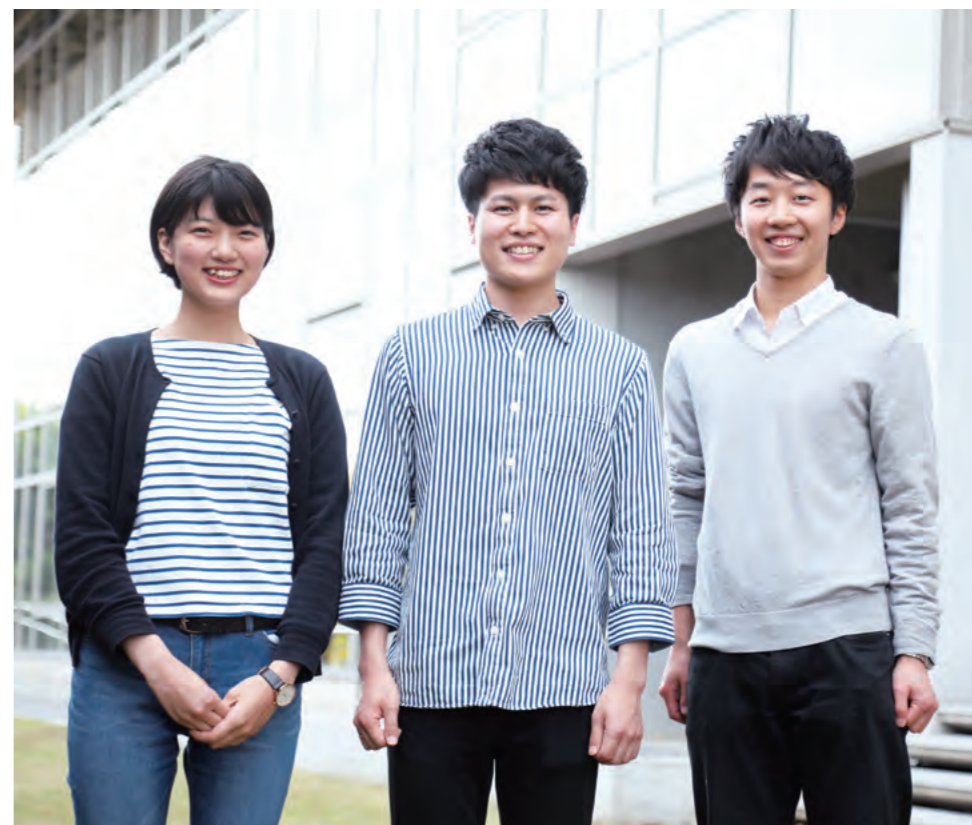
島田 一方的に発言するSNSと違って、留学生も気軽に発言できるので好評です。災害時にも、留学生に活用してもらえました。

—— セーフティネットとしても機能？

松長 そうです。地震や豪雨のとき、神戸大学のキャンパスに避難勧告が出されたときなど、テレビで発表される速報を僕らで英訳してトラス・インフォメーションに載せたり、英語の防災情報が見られるURLを貼ったりして情報を提供できました。

太田 LINEのグループでは留学生同士で

今年設立25周年を迎えた「Truss」(トラス)は、神戸大学で学ぶ留学生の学生生活をサポートし、日本人学生と留学生の交流を推進する国際交流サークルだ。「トラス」とは橋やドームの屋根組みに見られる三角形の集合による構造形式のことで、人の心に橋を架けたという思いが込められている。交流を促進する取り組みを、三役の皆さんにお聞きした。



Truss 会計  
島田 美宙  
HATADA Mihoro  
文学部人文学科ドイツ文学専修 3年

Truss 代表  
松長 克來  
MATSUNAGA Suguru  
国際人間科学部グローバル文化学科 3年

Truss 副代表  
太田 隆輔  
OTA Ryusuke  
工学部応用化学科 3年

—— トラスの活動内容は？

松長 留学生と日本人学生の交流イベントを企画・運営するともに、留学生をサポートする活動をしています。神戸大学では1300人も留学生が学んでいます。日本人の学生が普通に大学生活を送っている、留学生と話す機会ほとんどありません。でも、留学生との交流に魅力を感じ

も会話ができるので、どこに避難すればいい、何を見たらいい、といった情報共有に役立ててもらえました。誤った情報が共有されなければ、日本人が正すこともできます。

—— 2つも改革を行ったのはすごい。

松長 これからも留学生の身になって考え、国際交流の場を作っていきます。皆さん、ぜひトラスのイベントにご参加ください。



毎年4月と10月に行うウェルカムパーティー、100人以上が参加するTrussの代表的なイベント

る学生は多く、100人以上がトラスに加入しています。

太田 サークルの運営は、総務という幹部メンバーが中心となって行います。イベントごとに企画から運営までを担当する実行班があつて、今も10以上の班が動いています。

—— 具体的に、どんなイベントを？

松長 代表的なのがウエルカムパーティーです。留学生は4月と10月に神戸大学に入ってくるので、そのタイミングで年2回、鶴甲第一キャンパスの大きな食堂を借り切って開催します。新入生に限らず誰でも参加OKで、毎回120人ほどが集まります。

島田 ほかに、1〜2カ月に1度のペースでいろいろなイベントを開催しています。

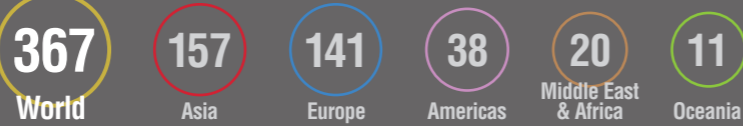
—— イベントでは自然に交流が進む？

太田 やはり言語の問題があつて、話しかけづらいという人が多いので、僕らが背中を押します(笑)。でも、話してみると意外に自分の英語が通じたり、ジェスチャーでも意思疎通ができることがわかってきます。それに、母国で日本語を勉強している留学生も多いので、日本語でゆっくり話せばコミュニケーションがとれます。その点をもっと広く伝えて、交流を進めていきたいですね。

—— 留学生の支援活動とは？

島田 新たに神戸に來た留学生は、区役所で国民年金や保険の手続きをしたり、転入届を出したりしなければなりません。その手続きには日本人でも難しい部分があるので、私たちが書類の記入から窓口での手続きまでを同行してサポートしています。





## International Staff Training Week 2019を開催しました

10-14 June 2019

6月10日から14日にかけて、神戸大学にて International Staff Training Week 2019を開催しました。このプログラムは、海外協定校の国際業務担当者を招いて本学の取り組みを紹介し、協定校間の交流をさらに拡充させる目的で開催したものです。アジアからはタイと韓国、ヨーロッパからはドイツ、フランス、ポーランドから8名の職員が参加しました。

5日間を通して、本学の国際戦略や国際業務等に関するセミナーを行い、本学と協定校の職員が熱心に議論を交わしました。また、キャンパスツアーとして、海事科学研究科の船舶関連シミュレータや海事博物館の見学、経済学研究科への訪問に加え、



神戸市や京都市の見学も実施し、本学のみならず日本文化への理解も深める機会となりました。

プログラムの中では、学生広報チーム(グローバルPR担当)が日本文化紹介のセミナーや神戸市の案内を担当し、協定校職員と交流を深めました。同チームでは、本学の学生と留学生が協力して英語でのPR活動を行っており、海外からの来学者へのキャンパスツアーやインタビュー、SNSでの情報発信など、積極的に活動しています。



ヤゲウオ大学



クラクフメインスクエア



アイスホッケー観戦

神戸大学には多種多様な協定校があり、留学生支援体制も充実しています。語学学校ではなく現地の総合大学に通えることも大きな魅力です。海外留学に関心のある方はぜひ神戸大学の留学フェアに足を運んでみてください。

昨年の秋から10ヶ月間、ポーランドのクラクフにあるヤゲウオ大学に交換留学生として在籍しています。神戸大学入学後、KUPES (EUエキスパート人材養成プログラム) の授業を通してEUの諸機関や経済状況、EU市民であることのアイデンティティ等を学ぶにつれ、東欧の視点からEUを捉えてみたいと思うようになったこと、以前からホロコーストの歴史やその継承のされ方に関心を抱いていたことが重なりポーランドを志望するに至りました。



クラクフ名物 ザピエカンカ

留学だより  
交換留学生としてポーランドのヤゲウオ大学へ  
国際文化学部 国際文化学科4年 森脇佑美  
MORIKAWA Yumi

## 世界中で盛り上がりを見せる「eスポーツ」 — その歴史を研究する —

### 神戸大学に来る前はどんなことを？

私は、四川省の四川師範大学というところで、英語を専門として勉強していました。英語と第2外国語と一緒に学ぶプログラムで日本語を学び始め、3年生のときに交換留学でしばらく日本に滞在して、日本の大学院に進学したいという気持ちが明確になりました。神戸大学を選んだのは、関西は親切な人が多い印象があるのと、きれいな風景や古い建物、遊べる場所が多いのが気に入ったからです。



eスポーツ試合の様子

### 今はどのようなことを研究していますか？

私はeスポーツに興味があり、その歴史について研究しています。今、世界中でeスポーツの大会が開催されていて、とても盛り上がっています。日本でも茨城国体の文化プログラムにも採択されるなど、最近話題になっていますよね。中国では2000年にはeスポーツクラブが立ち上がっており、今でも世界大会に出場して優勝もしています。

eスポーツは、ゲーム産業のただのイベントではなくて、一般的なスポーツ産業と近い傾向があります。もともと近代以前には「スポーツ」という概念がなく、もちろんスポーツ産業もなかったのですが、だんだん「スポーツ」というもののとらえ方、考え方ができてきて、その時代のエースや大学の人がルールやクラブを作り、大会を開いて、今のような文化・産業を作り上げてきました。eスポーツも、本来は1人や数人で遊ぶものであったゲームを、組織化してルールを作り、大会を開いて…と、一般的なスポーツと同じようなプロセスを経て、文化・産業が形成されてきています。両者が似ていること、また、似ているけれど、eスポーツの場合はその変化がここ10年、20年で急激に起きていることが面白いと思っています。

研究の一環で、ゲームを作っている人と、eスポーツクラブを運営している人に、上海でインタビューをしたこともあります。そして、今年の1月から3月まで、ゲーム会社のインターンにも参加して、ゲーム開発を体験することができました。研究を通して、これまで知らなかった世界に触れることができたのもよい経験になりました。

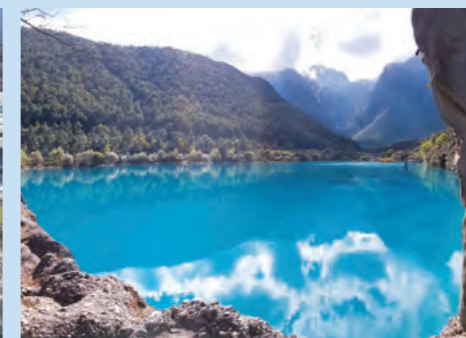
### 今後の目標は？

博士課程に進学したいと考えていて、今、研究費を得られる特別研究員の申請をしようと考えています。申請が通るかどうかは分からないのですが、申請をすることで自分が勉強になるし、自分の気持ちもはっきりさせることができるので、挑戦しようと思いました。

もっと将来のことを考えると、やはり自分もゲームを作りたい、ゲームのイベントを作りたいという思いもあります。これからAIが発達していくことを考えると、コンテンツを作るというのはAIにできない魅力的なことだと思います。プログラミングの勉強も始めましたし、進学を目標にしつつもインターンにも参加していて、様々なことに挑戦しています。



雲南玉龙山



雲南玉龙雪山



丽江古城-木府

世界各国から来た約1300人の留学生が神戸大学で学んでいます。このコーナーでは、母国の文化や習慣などの話を交えながら、国境を越えて頑張っている留学生にスポットを当てます。

## こんにちは！ 留学生です



### 任昱霖 Nin Ikurin

人間発達環境学研究所 前期課程からだ系コース2年  
中国の山東省出身。テコンドーが得意で、中国では子供たちに教えていたこともある。彼女も滋賀県に留学中。スケッチブックの「心想事成」は、「心に想うことは、成就する」の意。



中華人民共和国

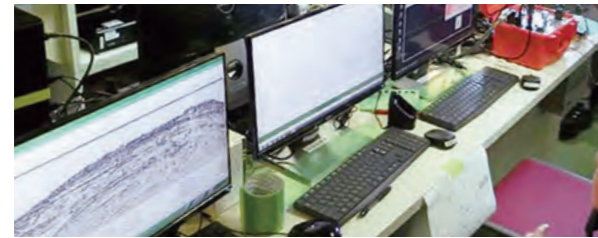
山東省は、黄河の下流に位置する省で、GDP中国第3位の経済規模を誇る。省都は済南。孔子や孟子、孫氏、諸葛亮(孔明)などの古里。山東料理は中国四大料理の一つで、水餃子や青島ビールがとても有名。



## 「大阪湾海底活断層探査」 クラウドファンディングで目標額達成、探査プロジェクトが始動

海洋底探査センターでは、神戸大学の練習船「深江丸」を用いて大阪湾の海底地形と地下構造を探査し、直下型地震やそれに伴う津波を引き起こす活断層の存在とその活動履歴を明らかにするプロジェクトを開始します。本プロジェクトについては、活動資金の調達に加えて活断層の密集域に暮らすことを少しでも多くの人々に認識していただくために、クラウドファンディングに挑戦しました。その結果、150名以上のサポーターから目標の200万円を超える支援をいただくことができました。早速探査の準備に入り、9月には第一回目の探査を実施する予定です。

地震大国日本では、いつでもどこで地震が起きてもおかしくありません。2018年6月18日には最大震度6弱の大阪府北部地震が発生しました。これまで知られていなかった活断層が動いたの



「深江丸」船内の最新海底探査装置



練習船「深江丸」

です。1995年に阪神淡路大震災を経験していたにもかかわらず、多くの人々は近畿地方が日本列島でも最高レベルの活断層密集域であることを忘れていました。そしてもうすでに、大阪府北部地震のことすらも忘れていたかもしれません。

大阪湾は今でもどンドンと沈降を続けていて、海底にはそれに伴う活断層が存在しているはずですが、まさにこの海域は直下型地震と津波の「巣」なのです。一方で、海底活断層の調査には船が必要なこともあり調査が進んでいません。神戸大学は練習船「深江丸」を所有し、最新の海底探査装置を搭載しています。この機能を最大限に活用して、大阪湾に潜む海底活断層の実態を明らかにすることは、神戸大学の使命の1つだと考えています。



## 新たな神大うりぼーグッズを発売します

8月上旬より神戸大学生協にて、新しい神大うりぼーグッズの販売を開始します。今回新たに加わるのは、クリアファイル4種、フィルム付箋4種、TODOリスト付箋3種、ノート2種、フェイスタオル1種です。普段使いにもお土産にもぴったりの、かわいらしいデザインとなっています。ぜひお手に取っていただきますよう、よろしくお願いいたします。



クリアファイル [A4タテ] 各157円

フィルム付箋 [80×48mm] 各390円

TODO リスト付箋 [57×111mm] 各390円

フェイスタオル [約36×85cm] 1枚 933円

クラフト表紙ノート [A5サイズ] 1冊354円

※価格は全て消費税込み(税率8%)

### 読者の皆様へアンケートのお願い

神戸大学広報誌『風』13号をお読みになったの感想をお聞かせください。今後の誌面作りの参考にさせていただきます。

- 1.どの記事に関心を持たれましたか
- 2.その記事についてどのような感想を持たれましたか
- 3.今後読みたい記事
- 4.その他何でも感想を

アンケートの回答は神戸大学広報課のメールアドレスにお願いします。

✉ [ppr-kouhoushitsu@office.kobe-u.ac.jp](mailto:ppr-kouhoushitsu@office.kobe-u.ac.jp)

※ご職業、年齢を書き添えていただけると幸いです。

WEBフォームもありますので  
今すぐアクセス!



日々更新中!



公式 Twitter  
「@KobeU\_PR」



公式 Facebook  
「神戸大学\_Kobe University」



公式 YouTube  
「神戸大学Kobe University」



公式 Instagram  
「kobe\_university」

## 校友会の会長就任にあたって

坂井 信也 (昭和45年経済学部卒)

この4月に校友会会長に就任しました坂井です。よろしくお願いいたします。

皆様は校友会についてどの程度ご存知でしょうか? 校友会の目的は、皆様が卒業された学部同窓会(単位同窓会といいます)と相互に補完し、柔軟な運営を目指すことを基本理念として、相互の交流と親睦を図るとともに、母校神戸大学の発展を支援し、もって我が国の教育研究、学術発展に寄与することとされています。

単位同窓会では出来ないこと、出来ないことを校友会として行っていききたいと思います。例えば東京など各地での交流は、支部活動として校友会が関わる必要があります。また各年代での交流、特に若い方の交流も校友会が関係することで活発になるでしょう。

大学支援ということでは、オール卒業生で、即ち校友会で全面的に支援していくことが必要です。優れた見識、豊富な経験をお持ちの卒業生の皆様、その幅広い人脈など人的資源も活用して、母校神戸大学を応援していきましょう。

是非とも皆様の物心両面でのご協力をよろしくお願いいたします。



## 神戸大学基金だより

よろしく  
お願いします



## 「2019年神戸大学基金フェローと学長との懇談会」を東京で開催しました



武田廣学長

2019年5月31日(金)、昨年神戸大学基金に多額のご寄附をされた「2019年神戸大学基金フェロー」の方々を招き、学長との懇談会を催しました。神戸大学東京六甲クラブを会場に開催し、関東在住の方を中心に、関西からもご参加いただきました。

はじめに、武田廣学長が本学を取り巻く情勢や課題について、次に基金担当の品田裕理事・副学長が神戸大学基金の昨年度収支実績について報告しました。

続いて、テーブルを囲み昼食を取りながら、フェローの皆様から本学の発展を願う叱咤激励をいただきつつ、活発な意見交換を行い、盛況の中、閉会となりました。

「神戸大学基金フェローと学長との懇談会」は、年2回東京と神戸で開催しており、次回は9月27日(金)に神戸大学で行う予定です。



懇談会出席者による記念写真

### 「神戸大学基金フェロー」

前年1月～12月を通じ、神戸大学基金へ20万円以上のご寄附(寄附累計額が100万円以上の場合、10万円以上のご寄附)を行っていただいた個人の方に対し、翌1年の間「神戸大学基金フェロー」の称号を授与し、基金フェローの方のみがご参加いただける「学長との懇談会」にご招待いたします。

### ～神戸大学基金について～

神戸大学基金では、学生への支援を中心に様々な分野へのサポートを行っており、「大学全般基盤事業」・「修学支援事業」へのご寄附は、主に大学全体で行っている学生支援に活用しています。

今後も学生への継続した支援を続けるため、また、神戸大学が更なる飛躍を遂げるために、神戸大学基金の拡充に向けご理解とご協力をお願いいたします。

※神戸大学基金へのご寄附は、確定申告を行っていただく税制上の優遇措置を受けることができます。

※神戸大学基金については、ホームページもご参照ください。

神戸大学基金

検索

